

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590800169		
法人名	サンキ・ウエルビー株式会社		
事業所名	サンキ・ウエルビーグループホーム岩国		
所在地	山口県岩国市牛野谷町二丁目16番32号		
自己評価作成日	平成29年10月31日	評価結果市町受理日	平成30年4月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成29年11月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症が進行しても、その人らしく生活できることを一番に考えて、一人ひとりの個性や体調変化に合わせた柔軟な対応を心掛けてケアを行なっています。車いすやベッド上の生活になっても、最期まで本人が家族や友人と触れ合える場所を提供し、職員も家族的な関わりを持ち続けることで、毎日を安心して生活できるように支援しています。また、地域との関わりを大切にして、職員が地域の清掃活動や祭り行事への参加協力を継続して行ない、日常的にも近隣地域の人と笑顔で挨拶を交わすことを職員全員が心掛けることで、地域との信頼関係を深めています。利用者が重度化した場合においても、住み慣れたグループホームで最期まで穏やかに過ごすことができるように、看取りケアの実践も継続して行なっており、協力医療機関だけでなく、かかりつけ医にも協力依頼を行ない、ホームでの看取りがスムーズに行なえるように地域への働きかけも行なっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ヒヤリハット・事故報告書を整備され、再発防止対策会議で事例検討を重ねられて利用者一人ひとりの事故防止に取り組んでおられます。応急手当や初期対応については、看護師や管理者により誤嚥や窒息、表皮剥離に対する処置の方法など、現場で指導しておられ、特に表皮剥離の初期対応の処置については、全職員が身につけておられます。災害対策として、今年度は大雨行動訓練を事業所独自に行われ、事業所職員4名が防災リーダーとして防災用品や避難用具の点検を毎月行っておられ、防災における地域連携も併せて、利用者や家族の安心感につなげておられます。管理者は、市主催の地域包括ケア推進協議会や保健福祉計画の策定委員、福祉専門学校主催の地域貢献協議会のメンバーとして地域におけるグループホームの理解や認知症の啓発活動に励んでおられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の申し送り時に、企業理念と事業所理念を唱和することで、職員全員で理念の再確認を行ない、地域から信頼されるサービス提供を心掛けて実践しています。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、事業所内に掲示している。管理者と職員は理念を唱和し共有して、利用者の笑顔につながるケアを目指すことで、理念を実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣地域の民生委員、福祉委員、自治会長との情報交換を行ない、地域行事へ利用者と職員が参加すると共に、事業所行事にも地域の方に参加して頂くことで、地域との交流を図っています。	地域の清掃作業に職員が参加している他、地域主催の花祭りや文化祭の作品展に利用者と職員が一緒に出かけて、地域の人と交流している。事業所主催の地域交流祭り（バンド演奏やカラオケ大会等）を5月に開催している。事業所は「子ども110番の家」としてトイレの開放や不審者等の防犯のための見守り活動をしている。散歩時に、地域の人と挨拶を交わしたり、野菜や果物、花などの差し入れがあるなど、地域との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者は認知症キャラバンメイトとして、地域の認知症サポーター養成講座への協力を継続して行ない、地域で行なわれるケア会議やサロン等への参加を通して、認知症の人への理解を促す活動を行なっています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価の及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	管理者と介護職員が集まって自己評価及び外部評価を実施することの意義を理解し、日頃のケアを振り返ることで課題を明確にして、今後の改善につながるように取り組んでいます。	管理者がミーティング時に評価の意義について説明し、職員は理解している。自己評価は、ガイド集を参考にして、ユニット毎に各項目について職員から意見を聞き取り、管理者がまとめて作成している。評価を通して、転倒防止と身体拘束をしないケアを両立するための見守り方法について検討を続け、職員間で振り返りをしている。前回の外部評価結果を受けて目標達成計画を立て、利用者と地域住民との交流、利用者や家族等の意見の反映、応急手当や初期対応の訓練の実施、自然災害時の対応について、改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回確実に開催し、事業所の運営状況及び利用者様の現状報告を行ない、会議で出された意見を参考にして、サービスの質の向上に活かしています。	会議は年6回開催し、利用者の現状や職員の状況、行事予定や実施行事、ヒヤリハット及び事故について、重度化した利用者への対応について、外部評価結果などの報告をし、意見交換している。メンバーから地域行事の紹介や地域における認知症の現状と課題についての情報を得ている。事業所での転倒事故や困難な介護の場合のケア方法について意見交換をし、家族やかかりつけ医を交えて話し合いの場を持つ必要性についての提案があり、サービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の介護保険課、高齢者支援課及び地域包括支援センターとの連携を深めて、事業所の運営実態についての報告や相談を行なうことで、信頼関係の構築に努めています。	市担当者とは、書類提出時に直接出向いたり、電話で相談して助言を得たり情報交換を行っている他、管理者は、地域包括ケア推進協議会への参加や市の保健福祉計画の策定委員として出席しているなど、協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時や電話で事例相談や情報交換を行っているなど、連携を図っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年間の研修計画の中で「身体拘束をしないケアの実践」について学習し、地域密着型サービスの指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解できる機会を設けて、職員全員で身体拘束をしないケアの認識を高めています。	内部研修で学び、ミーティング時に話し合っ て理解を深め、全ての職員が身体拘束をしな いケアに取り組んでいる。スピーチロックにつ いては気になる場合には職員同士で注意し 合っている他、管理者が指導している。ドラ ッグロックについてはかかりつけ医と相談し ている。玄関は施錠せず、外に出たい利用者 とは職員と一緒に外出している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法につ いて学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内 での虐待が見過ごされることがないように注意を払 い、防止に努めている	事業所は市の高齢者虐待防止ネットワーク の一員として、管理者が実務者会議等へ参 加することで、関係事業所との情報交換を行 ない、そこで出た意見等を事業所の会議等 で職員全員が共有し、高齢者虐待の防止意 識を高めています。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年 後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要 性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支 援している	現在、1名の利用者様が成年後見制度を利用 されており、権利擁護や成年後見制度につ いて、現任研修等で学ぶ機会を作ること で理解を深められるようにしています。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者 や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を 行い理解・納得を図っている	新規利用の契約を行なう際は、事業所の契 約書及び重要事項説明書の内容について、 懇切丁寧に説明を行ない、利用者やご家族 に十分理解して頂けるように努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や 処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望 を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を 設け、それらを運営に反映させている	事業所の運営及びサービス提供について、 利用者やご家族が意見を出しやすいように、 職員が日頃からコミュニケーションを図り、気 付きや要望についての聞き取りを行ない、運 営の改善につなげています。	契約時に、苦情相談窓口及び担当者、苦情 解決責任者、第三者委員、外部機関、苦情 処理手続きについて家族に説明している。面 会時や電話、運営推進会議時、行事参加時 に、家族から意見や要望などを聞いている。 意見箱を設置している。玄関がもっと明るいと よいのではないかと家族からの意見があり、 シーリングライトを取り付けたり、水槽の熱 帯魚を小型の鯉に替えて飼育しているなど、 家族からの要望には、その都度対応してい る。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や 提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議及び各ユニット会議におい て、運営に関する職員の意見や提案を出し てもらい、事業所の運営に反映できるように しています。	管理者は、月1回のユニット会議や全体会議 で職員の意見や提案を聞く機会を設けている 他、日常業務の中でも聞いている。職員の意 見や提案を集約し、管理者は月1回の法人内 ブロック会議で報告し検討している。介護用 食器、リクライニング車いす、介助バーの購入 やレンタル使用など、職員からの意見や提案 があり、反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤 務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがい など、各自が向上心を持って働けるよう職場環境 条件の整備に努めている	会社代表者は、本社人事部及び管理部と協 力して、各事業所の管理者及び職員個々の 実績考課を適正に行ない、職員各自が働き 甲斐のある職場環境整備に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、会社の基本方針として人材育成を掲げて、管理者だけでなく、個々の職員のスキルアップのための研修機会を提供し、社内だけでなく社外研修への参加の啓発を行っています。	外部研修は、職員に情報を伝え、段階に応じて勤務の一環として受講の機会を提供している。法人内研修は、管理者や計画作成担当者、事務職、有資格者、新任等職種別に開催し、参加している。内部研修は、本社からの計画に沿って、身体拘束排除と虐待防止、感染症及び食中毒の発生および蔓延防止、利用者のプライバシーマーク、職場のメンタルヘルス、事故の発生または再発防止、事故発生等緊急時の対応及びリスクマネジメントなどのテーマで、月1回実施している。新入職員は、管理者や先輩職員が指導者となり、働きながら学べるように支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、管理者や計画作成担当者が外部研修に参加して同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや研修会での活動を通して、サービスの質の向上に取り組んでいます。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にサービス提供記録とは別に介護支援経過を一定期間作成し、早く利用者様の状況を把握すると共に、職員全員で共有できるようにしています。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時にご家族の要望を聞き取り、それに対してどのように対応できるかを一緒に相談して、納得が得られるように努めています。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入時は、利用者様の状態に大きな変化が起こる可能性が高いことを十分に説明し、ご本人の状況によっては、グループホーム以外での生活を検討する場合もあることを伝えています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者様とのコミュニケーションを大切にして、常に家族的な対応を心掛けることで、共に生活する者として信頼関係が築けるようにしています。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、ご家族が面会に来られた時に日頃の利用者様の様子を伝えと共に、ご家族と一緒に過ごす時間を大切にして、居室でゆっくりとくつろげるように配慮しています。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族だけでなく、地域の友人や昔馴染みの友人に気軽に面会に来て頂けるように、職員は言葉遣いや礼儀に気をつけて、利用者様の馴染みの人との関係を大切にしています。また、ご家族の協力を得て、自宅に帰る機会を作っています。	家族の面会や親戚の人、友人、知人、茶道の弟子などの来訪がある他、年賀状や手紙などでの交流を支援している。自宅周辺の散歩、馴染みの商店で切り花やバナナ、菓子パン、ジュースを購入したり、家族の協力を得て馴染みの理美容院の利用、墓参りや法事への出席、外泊、外食など、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の利用者様が少しでも居心地よく過ごせるように、リビングでの席の配置を考えて、利用者様の状況変化があれば、臨機応変に対応することでトラブル防止にも努めています。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス契約が終了しても、地域で出会う機会があれば親しみを持って挨拶や会話を交わし、ご家族からの相談があれば、親身になって支援を行なうようにしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様やご家族からの要望をなるべく尊重し、本人の意向の把握が難しい方に対しては、表情や行動の変化を見ながら、少しでも笑顔が増えるように対応しています。	事業所独自に作成したケアチェック表を用いて情報収集をしている他、日々の関わりのなかでの本人の言葉や行動、生活状況をサービス提供記録や介護支援経過に記録することで、本人の思いや意向を把握するよう努めている。困難な場合は、表情や行動について職員間で話し合い、本人本位に検討している。		
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様の生活歴や最近の暮らし方を、ご家族から聞き取って把握し、十分に把握できない場合は入居後の本人の様子から、本人の望む生活リズムの把握に努めています。			
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の病歴、生活歴等から心身状態や有する能力等を考えて、現状で本人が行なえる活動等の把握に努めています。			
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	初期の介護計画は計画作成担当者が作成するが、その後は職員全員でモニタリングを行ない、本人やご家族の要望なども取り入れて、現状に即した介護計画を作成しています。	本人や家族の意見、かかりつけ医、薬剤師、職員の意見を参考にして、計画作成担当者と利用者を担当している職員が中心となって話し合い介護計画を作成している。月1回、モニタリングを実施し、3ヶ月に1回見直しを実施している他、6ヶ月毎に担当者会議を開催し、計画の見直しをしている。利用者の状態に変化が生じた場合はその都度話し合い、現状に即した介護計画を作成している。		
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のサービス提供記録及び介護支援経過に利用者様の様子を記入し、申し送りやミーティングで職員全員が情報を共有しながらケアを実践し、必要があれば介護計画の見直しを行なっています。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態変化やご家族からの要望により、少しでも安全で安楽な生活ができるように、必要な福祉用具等の導入、個別ケアの実践など、柔軟な対応に取り組んでいます。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源の把握に努めて、医療機関や薬局等の利用を継続したり、馴染みのお店で買い物をするなどの支援を行なっています。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人及びご家族の希望を優先し、これまでのかかりつけ医と事業所の関係を築くと共に、本人の状態によっては事業所の協力医療機関からの医療を受けられるように支援しています。	利用者それぞれのかかりつけ医の他、協るp九医療機関をかかりつけ医としている。協力医療機関は月2回の訪問診療があり、夜間や緊急時の対応が可能である。精神科受診は家族の協力を得て受診支援をし、他科受診は事業所が支援している。家族が受診同行するときは本人の様子が分かる資料を提供している。家族には、受診前に電話連絡をす場合もあり、受診結果は、電話や面会時に報告するとともに、業務日誌に記録して職員間で共有している。歯科は必要に応じて法人内の歯科医師の往診がある。緊急時は管理者の指示を仰いで事業所が受診支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は、利用者様の体調変化や日常生活での気づきがあれば、職場内の看護職または協力医療機関の看護師等に報告して、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院した際は、事業所での生活状況や体調変化についての情報提供を行ない、病院関係者との信頼関係づくりに努めることで、早期の退院受け入れができるようにしています。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方を検討する必要がある場合は、本人や家族の状況も考慮した上で可能な限り早めに、主治医も交えての話し合いを行ない、関係者からの支援が可能であれば、事業所での看取りも行なっています。	契約時に、事業所でできる対応について家族に説明している。実際に重度化した場合は、本人や家族の意向をふまえた上で、主治医や職員と話し合い、方針を決めて共有し、看取りの場合は「看取り介護についての同意書」を交わして、支援に取り組んでいる。看取りの研修は年1回行っている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	計画的に実施している現任研修を利用して、事故防止への取り組み及び利用者の急変や事故発生時の応急手当、初期対応等の訓練を行ない、実践力の習得に努めています。	事象の発見者がヒヤリハット(気づき)シート、苦情・事故報告書に記録し、申し送り時に報告している。その後は各ユニット会議や月1回の全体会議で同法人他事業所での事故事例報告も併せて検討し、再発防止会議の議事録に記録し再発防止策を講じ、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。応急手当や初期対応については、管理者や看護師の指導により誤嚥、窒息、表皮剥離に対する処置の方法を訓練し、現場で指導している。表皮剥離の初期対応の技術は全職員が身につけている。	・全職員による応急手当や初期対応の定期的訓練の継続

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防避難訓練を確実に実施することで、火災発生時の対応力を身につけると共に、地震、水害等の災害時訓練も別の機会に実施し、地域の民生委員、福祉委員等との協力体制も築いています。	年2回昼夜想定で火災時の避難、通報、消火訓練を、運営推進会議のメンバーも参加して利用者と一緒に実施している。事業所職員が防災リーダーの研修を受けており、防災用品や避難器具の点検を毎月行っている。地震や水害等を想定した大雨行動訓練として、避難判断基準をインターネットから情報収集し、利用者と一緒に避難場所へ移動する訓練を実施している。備蓄品としては飲料水以外は法人内の近距離の他事業所と共有している。地域との協力体制を築いている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人格とプライドを尊重し、日常的な言葉遣いや会話の内容にも配慮しています。また、利用者様の機嫌を損ねないように、活動支援を行なっています。	内部研修で学び、職員は理解して、利用者の自尊心を傷つけず、プライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。個人記録の保管に注意し、職員は、機密保持の誓約書を書き、守秘義務を遂行している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ユニット毎に個々の利用者様の希望を聞き取り、本人が望む活動の支援を行なっています。また、その日その時の状況に合わせて、柔軟な対応を心掛けています。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりや毎日の日課を優先することなく、一人ひとりのその日の状況に合わせて、食事、入浴、レクリエーション活動等の対応を変えるなど、利用者本位に支援を行なっています。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常着と寝巻きを毎日交換し、常に清潔な服装で生活できるように支援しています。また、その人の好みや個性を優先した身だしなみにも配慮しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と職員と一緒に食事の準備を行なうことは難しいが、片付けができる人には手伝ってもらい、一人ひとりの好みや嚥下、咀嚼の力を考えて、少しでも食べる楽しみが持てるように支援を行なっています。	利用者の好みを聞いて献立を立てて、三食とも事業所で食事づくりをしている。利用者はもやしのひげ根取りや豆の筋取り、テーブル拭き、下膳などできることを職員と一緒にしている。誕生日の寿司やケーキ、季節の行事ごとにおせち料理、ひな祭りのちらし寿司、端午の節句の柏餅に因んだ柔らかい饅頭、七夕には食べやすい長さに切ってそうめん流し、敬老の日には介護食のソフト食での紅白饅頭、クリスマスなども特別なメニューにして提供している。ゼリーや寒天、たこ焼き、ホットケーキ等のおやつを利用者と職員と一緒につくったり、事業所主催の地域交流祭りでは焼きそば等を、年1回の家族と合同のバーベキューをテントの下で行う、個別支援としての外食、家族の協力を得ての外食など、食べる楽しみを工夫して食事が楽しめるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの嗜好に配慮して、食べる量や栄養バランス、必要な水分量が確保できるように、その人の食習慣に合った食事形態や飲み物の工夫を行なっています。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時及び毎食後に歯みがきや口腔ケアを行なうことで、口の中の汚れや臭いを防いでいます。また、歯や歯肉の専門的なケアが必要な人には、訪問歯科診療の機会を設けています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	座位が可能な人には、できるだけトイレでの排泄が行なえるように、定期的にトイレ誘導を行なっています。また、本人の尿意・便意の訴えがあれば、なるべく早く対応できるように努めています。	排泄チェック表で利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、声掛けや誘導でトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちの利用者様が多いため、ラジオ体操や室内での歩行練習等の運動支援を行なうと共に、水分摂取量を増やす、食物繊維の多い食事を提供するなどの取り組みを行なっています。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の体調に合わせて浴槽に入る時間を変える、入浴剤を変えて香りを楽しんでもらう、入浴を嫌がられる場合は清拭で対応するなどの工夫を行なっています。	入浴は3日に1回(夏期は2日に1回)、14時から15時30分までの間に一人ずつの入浴を支援している。入浴剤の使用や冬至にゆず湯を楽しんでいる他、歌を歌ったり昔の話をするなどゆったり入浴できるように支援している。利用者の状態により清拭やシャワー浴、足浴、手浴で対応している。入浴したくない人には、無理強いせず、タイミングを変えたり声掛けを工夫して支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や体調に合わせて、室温や寝具の調整を行ない、本人が安楽に眠れるように枕やクッション等の工夫や部屋の明るさの調整等を行なっています。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの利用者が服用している薬の目的や副作用について学習し、薬剤師の指導も受けることで用法や用量についての理解に努めています。また、誤薬事故を防ぐために、職員同士で服薬時の確認を徹底して行なっています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の利用者様の好みや能力に応じて、本人が楽しめる活動として、歌、塗り絵、パズル、風船バレー等のレクリエーションを行なうことで気分転換が図れるようにしています。	テレビ視聴（バラエティ、歌番組、相撲、野球、水戸黄門時代劇、ニュース）、新聞を読む、折り込みチラシを見る、ぬり絵、ちぎり絵、折り紙、ラジオ体操、テレビ体操、口腔体操、パズル、漢字ドリル、計算ドリル、風船バレー、魚釣りゲーム、黒髭ゲーム、輪投げ、洗濯物室内干し、洗濯物やタオルたたみ、日記をつける、ノートに書く、読経、収集品をダンスに仕舞う、歌を歌う、昔の思い出話をする、毎日の献立書き、もやしのひげ根取り、豆の筋取り、テーブル拭き、下膳、花祭りや文化祭の見学、事業所主催の地域交流祭りのバンド演奏観賞やカラオケ大会に参加する、玄関の鯉を愛でるなど、利用者一人ひとりの楽しみごと、活躍できる場面づくりの支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日や気候の穏やかな季節には、事業所周辺の散歩の機会を増やしたり、桜や紅葉の季節には車で少し離れた場所に出かける等の外出支援を行なっています。また、家族と一緒に外食や地域の祭りへの参加支援も行なっています。	事業所や自宅周辺の散歩、運動公園等へのドライブ、買い物、外気浴、花祭りや文化祭の見学、季節の花見（桜、あじさい、菖蒲、紅葉）、初詣、理容院の利用、家族の協力を得ての外出など、日常的に外出できるように支援をしている。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、利用者様がお金を持つことの大切さを理解しているが、現状では本人がお金を持つ楽しみを持っている人がいないため、受診や買い物等の外出時に自販機で飲み物を買ったり、好きなお菓子などを買う機会が持てるようにしています。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	親戚や友人からの手紙は本人に渡して、誰から来ているかを説明したり、本人が返事を書ける場合は手紙を郵送したり、ご家族に渡してお礼を伝えてもらう等の支援を行なっています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニット毎に共用の空間には季節感のある物を飾ったり、利用者が安全に移動できるように家具を配置する、不快な臭いや音の発生を防ぐ、温度、湿度、明るさ等を調整して居心地よく過ごせるように工夫しています。	玄関を入ったところに数匹の鯉が泳ぐ水槽があり利用者や職員の癒しとなっている。リビングには観葉植物や花の咲く鉢物を置き、自由に配置替えできるテーブルと椅子、ソファを配置し、外を眺めたりテレビを観るなどくつろげる空間づくりをしている。壁には季節に応じたはり絵作品やイベントの写真が飾っており、室内の温度や明るさに加え、利用者の好みの音楽が適切な音量でかかっている。台所からは食事の準備をする音や匂いがしている。換気にも配慮があり、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その時々に応じて、利用者同士の関係性や体調変化なども考慮して、テーブルや椅子の配置を変える、テレビが見やすい位置を工夫するなど、個々の利用者が気持ちよく過ごせる場所づくりを支援しています。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は個々の利用者様の馴染みの物を置いたり、自宅で使用していた日用品や寝具を使ってもらうなど、本人が自宅と同じようにリラックスして過ごせるように配慮しています。	寝具やタンス、整理棚、小型テレビ、鏡台、椅子、時計、化粧道具、小物入れ、衣装など使い慣れたものや好みのものを持ち込み、壁には誕生日の写真、家族の写真、家族が描いた似顔絵、長寿祝いのメダルや造花、ぬり絵作品、カレンダーを飾って、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの利用者様の歩行や活動の妨げにならないように、リビング内の整理整頓を心掛け、本人の意思で自由に行動できるための環境づくりに努めています。		

2. 目標達成計画

事業所名 サンキ・ウエルビィグループホーム岩国

作成日：平成 30 年 4 月 13 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	20	家族を交えた行事等の機会が少なく、面会が多い利用者以外は家族との交流が少ない。	本人と家族の絆を大切にして、家族と介護職員が共に本人を支えていける関係を築く。	ユニット内で行なう行事等に利用者家族の参加を促し、面会以外の場面で利用者と家族が触れ合う機会を増やす。ユニット合同の行事を企画し、グループホーム全体の利用者と家族と一緒に楽しめる機会をつくる。	12ヶ月
2	28	職員によって利用者に対する気づきの違いが大きく、個別記録の内容及びケアのスキルの差が大きい。	利用者の日々の様子やケアの実践結果、気づきの工夫等を個別記録に残すことを意識付けし、職員間で情報を共有しながら、介護計画の見直しにつなげる。	サービス提供記録の書き方についての研修を行ない、ユニットリーダーが中心となって記録内容の確認を行なう。不足している部分は、ユニット会議等で情報を共有し、一人一人が記録のステップアップをめざす。	12ヶ月
3	35	事故発生時の応急手当や初期対応の訓練が不十分であり、職員によって対応スキルに差がある。	全職員が応急手当や初期対応の方法を習得し、実践できるようにする。	応急手当や初期対応の正しい方法を、まずはユニットリーダーが習得し、各ユニット内での実地指導を繰り返し行なうことで、職員全員の対応力を高める。	12ヶ月
4	36	火災だけでなく、地震や水害等の自然災害に対する防災意識を高める必要がある。	地震・水害等の自然災害時にも利用者を安全に避難できる方法を全職員が身につける。	地震・水害等を想定した避難訓練を継続して実施し、職員個人のイメージトレーニングを繰り返し行なうことで、日常的な防災意識を高める。	12ヶ月
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。